



1月18日に「ニューイヤージャズライブ」が開催され、一戸小学校金管バンドが、見事な演奏を披露しました。

12月定例会

一戸町武道場完成 設置条例などを可決 …………… 2

町の未来を問う 一般質問5氏が登壇 …………… 6

管外行政視察 長崎県松浦市・佐賀県嬉野市 …………… 14

12月定例会

「士道館」の名に恥じめ鍛錬を



今定例会で、武道場の設置および管理に関する条例改正が可決されました（16ページに関連記事）

今期定例会は、12月4日から9日までの6日間の日程で開催しました。

定例会では、報告1件、諮問2件、議案10件が提案され、審議の結果、すべて原案のとおり可決しました。

一般質問では、5人が町政の諸課題についてたどしました。

請願（新規1件）は、常任委員会での審査を経て採択としました。また、意見書提出の発議案1件を提出し、原案のとおり可決しました。

また、議会推薦の農業委員会委員3人を全会一致で選任しました。

報告

▼(株)奥中山高原リゾート 公社の経営状況報告

観光業を取り巻く環境が依然として厳しい中、昨年度より力を入れて取り組んだ仕出し事業で一定の成果を生むことができました。しかし、電気料金などの高騰により経費がかさみ、555万7千円の赤字となりました。



厳しい決算状況となった(株)奥中山高原リゾート公社

計画

▼過疎地域自立促進計画 の変更

過疎対策事業債を使える事業として
 ・草地畜産基盤整備事業
 ・林道笹目子線開設事業
 ・公共施設解体撤去事業
 ・鳥海小スクールバス購入を加えるものです。
 各事業の実施時期は未定です。

全会一致で可決

条例

▼家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定

家庭的保育事業、小規模保育事業、居宅訪問型保育事業、事業所内保育事業の設備および運営に関する基準を定めるものです。

全会一致で可決

▼特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の制定

特定教育・保育施設（幼稚園、保育所、認定こども園）の運営に関する基準、特定地域型保育事業の運営に関する基準を定めるものです。

全会一致で可決

▼放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定

放課後児童健全育成事業の設備および運営に関する基準を定めるものです。

全会一致で可決

▼町民文化センター条例の一部改正

武道場の設置および管理に関する規定を加えるものです。

全会一致で可決

▼国民健康保険条例の一部改正

出産育児一時金の基本となる額を39万円から40万4千円に引き上げるものです。

全会一致で可決

補正予算

▼一般会計補正予算（第6号）

歳入歳出それぞれ2億2350万円を追加し、総額をそれぞれ80億1650万円とするものです。
 主な事業は、左表のとおりです。

全会一致で可決

▼農業集落排水事業特別会計補正予算（第3号）

歳入歳出それぞれ188万円を追加し、総額をそれぞれ9520万7千円とするものです。
 内容は
 ・マンホール等修繕料 100万円
 ・施設管理費（光熱水費） 88万円
 です。

全会一致で可決

▼後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）

歳入歳出それぞれ344万2千円を追加し、総額をそれぞれ1億3594万2千円とするものです。
 内容は、後期高齢者医療保険基盤安定負担金です。

全会一致で可決

補正予算（第6号）の主な事業 単位：万円

過疎地域自立特別事業基金積立金	1720
新卒者ふるさと雇用支援事業	▲1190
長期債元金償還金	1億6357
(新) 生ごみ発酵分解処理場屋根新築工事	150
(新) 土曜学習実施事業	50

※（新）は新規事業

質疑応答

問 認定こども園について、当町では開設する予定があるか伺います。

答 保育所・幼稚園の入所・入園状況の動向に配慮しながら、施設として一つにして運営

していく方が効率的だということになれば開設するきっかけになると考えています。

問 学童クラブがない地区では、放課後子ども教室が学童保育の役割を担っている状態で

す。総合的に町全体を見渡して児童の放課後の健全育成について検討していく必要があると思いますが、所見を伺います。

答 現在は、厚生労働省の学童保育と文部科学省の放課後子ども教室という2つの制度がありますが、国より示された「放課後子ども総合プラン」によりまずと、学童保育と放課後子ども教室を一体にするという内容のものがありません。将来的には、これらを参考に一体的な運営も検討していきたいと考えています。

問 子育て世帯臨時特例給付金について対象件数、対象児童生徒数と、27年度の実施予定を伺います。

答 対象件数は660件、対象児童生徒数は1179人でした。

また、27年度以降についての情報は把握していませんので、今年度限りと捉えています。

問 新卒者ふると雇用支援事業について、当初では10人の予定でしたが、実際は4人でした。企業への周知が足りなかったのではないかと思います。所見を伺います。

答 この制度は25年度の補正予算で対応したものです。その後、町内の事業主にお問い合わせしましたが、その時点で26年度の採用が決まっていたため、今年度は4人という結果となりました。

問 土曜学習について受講予定者数と、指導方法を伺います。

答 中学校3年生については、以前希望をとったところ22人でした。その後、中学校2年生も含めた方がいいのではないかといいところ、希望をとっているところ

です。また、指導方法については、授業形式ではなく、個別指導で行います。



児童の放課後の健全育成についての検討が必要です
(写真：一戸南学童クラブ)



土曜学習は1月17日から始まりました

人権擁護委員推薦に同意

人権擁護委員として新たに吉田幸男氏と東山奉子氏の2人を推薦することと同意しました。

任期は、平成27年4月1日から平成30年3月31日までの3年間です。



ともこ
東山奉子氏
(西法寺字稲荷)



さちお
吉田幸男氏
(榑山字滝野)

人権に関して悩んでいること、心配なことがありましたら、お気軽に人権擁護委員にご相談ください。

固定資産評価審査委員会委員選任に同意



相馬憲治氏
(高善寺字古館平)

固定資産評価審査委員会委員として、相馬憲治氏を選任(再任)することと同意しました。

任期は、平成26年12月24日から平成29年12月23日までの3年間です。

農業委員会委員3人を推薦

農業委員会委員の改選に伴い、大畑フミ氏、中嶋京子氏、澤口松男氏の3人を議会で推薦しました。

任期は、平成26年12月17日から平成29年12月16日までの3年間です。



澤口松男氏
(宇別字椀木平・4期目)



中嶋京子氏
(奥中山字西田子・新任)



大畑フミ氏
(榑山字深持・5期目)

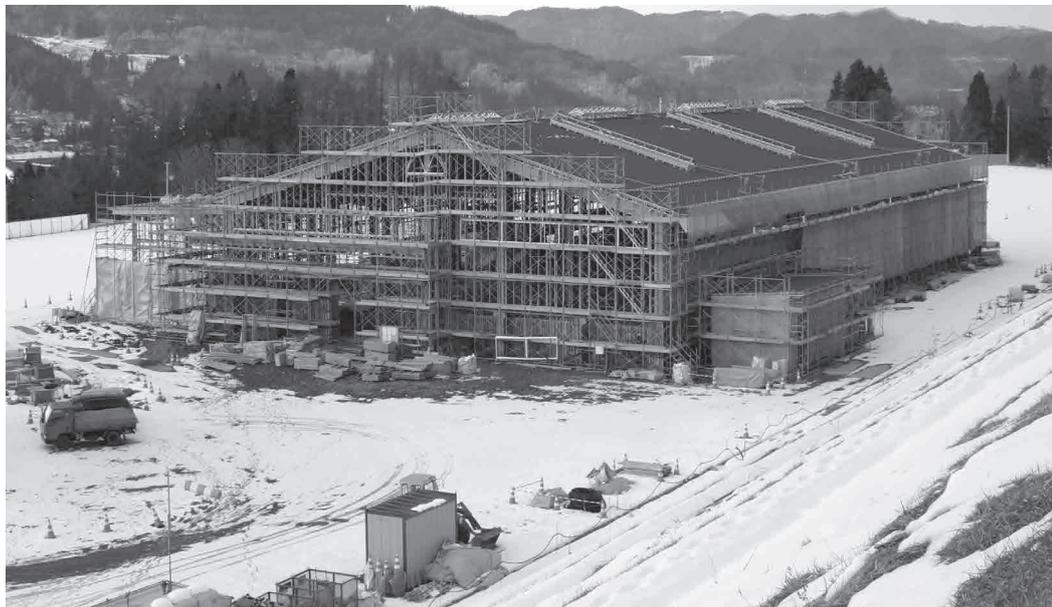
一般質問

一般質問は、行財政全般にわたり疑問点をただし、町の所信を求めるもので、定例会で行ないます。

通告者

柴田正三 議員
上山文雄 議員
菅野敦子 議員
峠勇男 議員
田中辰也 議員

一般質問



一戸インター工業団地に建設中の木質バイオマス発電所



柴田正三 議員

工業団地

新工業団地の整備は

適地選定し整備はオーダーメイドで

質問

人口減少対策の一つにもなる雇用の創出を図るために、区画が埋まった一戸インター工業団地に加え、第2工業団地の整備が必要と思えます。町内における産業振興、雇用の創出を図っていくためにも早急な整備が必要と考えますが、町長の所見を伺います。

町長

平成5年度に供用開始した一戸インター工業団地の3区画全てが埋まったことについては、安堵しているというのが偽らざる心情です。特に若年層の定着のためにも、この状況に満足することなく、引き続き企業の立地を促していく必要があります。

新たな工業団地の整備においては、過去の経験を踏まえ、まずは適地の選定を行います。

そして立地を可能とするための諸条件、例えば法規制への対応、町と地権者との用地提供についての合意、整備はオーダーメイド方式となることの事前了承、などを整えておきます。

立地を希望する企業との具体的な交渉の中で、借地契約方式の提案と造成方法の協議を行う、という手順を進めたいと考えています。

一戸町議会

一戸町議会のページ

議会中継



議会傍聴・議会中継をご利用ください

3月定例会の会期が決定後、一戸町のホームページなどでお知らせいたします。

議会傍聴と町ホームページでの議会中継のライブとオンデマンドをぜひご利用ください。

<http://www.town.ichinohe.iwate.jp/> 議会中継をクリック!

町ホームページのトップページ右下



上山文雄 議員

電気自動車

充電設備の現状と対策は

設置に向けて検討

質問 電気自動車などの充電設備について伺います。
二戸市では市内6カ所に充電設備を建設中で、完成も間近と聞いています。また、その利用料は無料ともいわれています。

町長 この設備は二戸市が一般社団法人次世代自動車振興センターが実施する「次世代自動車充電インフラ整備事業」の補助制度などを活用して実施されるのですか。



地元企業によって設置された充電設備（岩手町・道の駅石神の丘）

補助を受け整備したものと伺っています。
なお、設備利用料は業界団体に加盟し、利用者がその団体に定額の会費または使用量に応じた従量負担を支払う方式をとっておりますので、利用料は無料ではありません。

町長 近隣自治体設置の充電設備は、軽米町は2カ所、岩手町、葛巻町ではそれぞれ1カ所、九戸村は未整備とのことですが、また、自治体設置の計画は現時点では予定はないとの情報です。

質問 当町の充電設備計画などをお聞かせください。
町長 当町といたしましても、今後の木質バイオマス発電所の稼働を見据え、地域で生み出された電力を地域で利用できるように環境整備を図ることも必要と考えていますので、設置に向けて検討を進めてまいります。





菅野敦子 議員

入会山問題

説明会の内容は

町で所有し地域での管理を提案

質問 去る8月25日に小繫山問題に関する説明会を行ったというのですが、説明会開催の目的と内容を伺います。

町長 この問題は長い間の闘争を経て一定の解決は見たものの、登記上の解決までには至って



小繫山問題解決へ向けて一歩踏み出しました

ない状況です。また台帳課税の原則だけでは解決されない、税負担の不公平性と町の財源確保上の課題もあつたことから、新たな世代交代が進む前に実現可能な解決策がないものか熟慮してきました。

そのような中、説明会

において、所有権を町に譲渡していただき、小繫地域の住民で管理組合を設立していただいたうえで、山林の管理をお願いし、同時に入会的な利用を認めるという提案をしました。

これにより、地域の近くにある豊かな資源を、住民が自由かつ堂々と活用できることになりました。木材価格が徐々に高まっている現在にあつては、高い経済活動が得られることにもなります。今回の提案は、過去の禍根を断ちながら地域に和をもたらすことにもなり、現実に即した合理的な解決策だと考えます。

国保会計

税額据え置きの方策は

社会保障財源分を繰入予定

質問 国保会計について、依然として厳しい状況です。町長は国保税の値上げは抑えると公約していますが、その対策を伺います。

町長 国保財政の運営を円滑に進めるための財政調整基金が底をついたために、平成24年度に続き25年度も決算額の不足を埋めるため繰上充用をしたところです。

また、各種検診の無料化を継続するなど医療費削減のための対策を進め、保険税の収納率向上にも努めてきました。



保険税の収納率向上に努めます

このような取り組みの成果を得ながら、今後も国保税の引き上げを抑制していきたいと考えています。

なお、26年度は既に2291万4千円を一般会計から法定外繰り入れしました。これは、消費税増税に伴い当町に配分される地方消費税交付金（社会保障財源分）であり、国保会計に優先的に繰り入れたものです。

27年度においても、地方消費税交付金のうち社会保障財源分を財源に、法定外繰り入れをする予定です。



嶋 勇 男 議員

農業振興

米価下落に対する救済措置は

モデルケースには町独自の支援策



鳥海地区ほ場整備事業

質問 米価の下落により生産農家が非常に困窮しています。町税負担の軽減や町独自の低利融資などの救済措置を講じる考えはありませんか。

町長 26年産米の米価は、平成18年度以降最安値を記録し昨年に比べても3割以上低下しました。米農家の経営安定のための「米の直接支払い交付金」が半分に削減されたことや、「米価変動補てん交付金」が廃止されたことにより、米価下落のダメージが大きく、経営に支障をきたしています。

しかし、農林漁業セーフティネット資金融資の円滑化など米価下落に対する緊急対策が国によりおこなわれていることから、これらの措置が適切に受けられるように情報提供を行い、支援していきます。なお町税の減免については、今回の場合

は冷害などと異なり、町税条例の減免の規定に該当しません。納税に困難をきたす方には、個別の納税相談で対応したいと考えます。

質問 米以外の作物に転換する場合において現行の「いわて地域農業マスタープラン実践支援事業」の予算枠拡大の取り組みや町独自の支援策を検討する考えがあるか伺います。

町長 米の過剰作付け・在庫・消費減退などの影響により、安値基調が続く恐れもあることから、国に対してもっと踏み込んだ需給環境整備を求めています。また、町においては、飼料用米やリンドウなどの転作物の生産拡大を支援します。

主食米以外の作物に転換する場合において必要な機械や施設整備におい

ては県の補助事業により助成してきたところで、今後も転作物の生産拡大を図るために、県に対して予算枠の拡大を強く要望していきます。例えば、鳥海地区のほ場整備事業のように、地域営農により農地の集積・集約化を図り、モデルケースとなるような場合には、町独自の支援策を検討します。



田中辰也 議員

乳和食 健康増進と産業振興に貢献 アイデアを募りメニュー開発

質問 調理に牛乳を使った「乳和食」が話題になっていますが、健康増進と産業振興を兼ねて、推進すべきと考えますが、所見を伺います。

町長 近年の健康志向の高まりにより、牛乳を使った減塩食である「乳和食」が健康の維持増進につながるものと認識しています。「乳和食」が

健康の維持に有効であれば、町の食生活改善推進員、食育推進ネットワーク会議などの活動において、牛乳の活用法のアイデアを募り、必要に応じ講師を招き講演会を開催したいと思います。

「乳和食」を長く続けていくためには、見た目の出来栄えや、食べておいしいものでなければなりません。このことを意識した提案をもとに、飲食店などで提供するメニュー開発につなげていきたいと思えます。



最近、話題となっている「乳和食」

教育支援

学校へ司書を派遣

司書活動を充実し地域全体で支援

質問 学校図書管理を町の図書館が一部請け負っていますが、さらに踏み込んで、各学校へ司書を定期的に派遣し、タイムリーな図書の入替えなどが行われることなどにより、学校教育をサポートしてはいかがですか。

教育長 現在学校図書館に専任の司書は配置していません。町立図書館が学校図書館に助言を行い、月一回学校の各学年へ30冊程度の団体貸し出し、購入図書の相談受付

と学校図書システムを使用した図書購入・登録の支援、蔵書点検などを実施しています。

また子どもたちの読書活動を推進するため、学校へ出向き、各年代にあった本を紹介するブックトークなども行っています。

現在行われている読書推進活動をもとに、図書館司書活動の充実を図り、町の図書館を核として地域全体で学校を支援していく取り組みをさらに広げていきます。



子どもが読書したくなるような環境の整備（東成瀬小学校ホールの展示）

請願・意見書

今期定例会では、新規請願1件を付託・審査し、採択としました。また、意見書1件を国へ提出することにしました。

◎米価安定対策等に関する請願（産業建設常任委員会）

◎意見書
米価安定対策等を求める意見書

▼審査内容

米の作付面積が約300haの当町においても、平成26年産米の価格下落、米の直接支払交付金の減額などの影響は大きく、米生産農家の経営は非常に厳しい状況にあります。

米生産農家が将来にわたって、意欲をもって稲作に取り組んでいくためには、万全な経営安定対策の構築が必要と判断し、採択としました。

全会一致

▼要望事項

①特例措置を含めたナラシ対策などの適切な運用
②異常気象への十分な対応

③平成26年産米の適正販売に向けた環境整備
④飼料用米の生産拡大に向けた環境整備と長期的・継続的な支援確保
⑤平成27年産米の適切な生産数量目標の設定
⑥将来展望の描ける総合的な水田農業政策の確立



旧堀口家敷地を購入

10月・11月臨時会

10月17日と11月25日に臨時会を開催し、審議の結果、全議案を可決しました。

10月臨時会

◆財産の取得

土地の所在地

一戸字向町151番地

一戸字向町239番地1

面積 5267・17㎡

取得先 堀口治五右衛門

氏ほか5名

取得金額 1億1587

万6800円

古い街並み保存と地域

振興のために土地を取得

するものです。なお建物

は保存するものを除き、

解体撤去の上、購入する

ものです。

また、保存住居は町に

寄贈いただきました。

◆工事請負契約

契約者 (株)デンドウ住宅

契約金額 6748万

11月臨時会

560円

総合保健福祉センター

にチップボイラーを設置

するものです。

◆物品の購入

購入先 岩手三菱ふそう

自動車販売(株)東北営業所

購入金額

791万8710円

一戸小学校のスクール

バスを更新するもので

す。

◆職員等の給与改正

人事院勧告の例に準

じ、月額給料を4月1日

に遡り平均0・3%引き

上げ、勤勉手当の支給率

を0・15月引き上げるも

のです。

また、特別職の期末手当の支給率を0・15月引き上げるものです。

◆専決処分の報告（一戸町武道場新築工事の請負契約の変更）

契約先 (株)田中建設

変更金額 979万

6680円の増額

変更内容 労務単価の変

更、駐車場舗装工の増工、

断熱材の規格変更、柔道

備品の規格等変更

◆補正予算

一般会計のうち、

衆議院議員選挙費

1754万4千円の増額

を除き、人事異動と給与

改正によるものです。

一般会計（第5号）	1220万円減
特別会計	
農業集落排水（第2号）	7万6000円増
下水道（第2号）	1万7000円増
水道事業（第1号）	
収益的支出	95万円増
資本的支出	28万1000円増

「学力日本一の村」を視察

総務教育民生常任委員会と教育委員会による秋田県東成瀬村視察



写真上：ハンドサインで意見を交換
写真下：体育の授業後も「ふり返り」

11月18日、総務教育民生常任委員会の所管事務調査を行いました。調査は教育委員会と合同で、委員7名のほか議員1名、教育委員5名が参加し、秋田県東成瀬村の東成瀬小学校などを視察しました。



報告者
中瀬春英 委員

総務教育民生常任委員
会では、平成19年度の文
部科学省学力テスト開始
以来、常に上位である秋
田県東成瀬村立東成瀬小
学校を視察しました。今
回の視察には教育委員会

にも声をかけ、共に一戸
町の子どもたちの学力向
上のための手掛かりを探
ろうとの思いで視察に臨
みました。
小学校には保育園、児
童館、村民体育館、多目

的ルーム（児童のランチ
ルーム）が併設されてい
て、子ども同士、大人同
士、子どもと大人、それ
ぞれがお互いから学ぼう
という「共に学びあう教
育」を感じました。

全学年の授業を見学し
ましたが、視察者が教室
に入っても授業に集中し
ている子どもたちになま
ず感心しました。児童の机
は、現在の教科書サイズ
に見合った広い机を使用
していました。

授業スタイルは「課題
設定」↓「学びあい」↓「ま
とめとふり返り」。「学び
あい」の時間は、ハンド
サイン（パー…意見、チヨ
キ…反対、グー…同じ、
人差し指を立てる…つけ
たし）を使って意見を出
し合い、それを教師がう
まくコーディネートして
いました。最後の10分く
らいは「まとめとふり返
り」の時間を設け、今日
の課題について自分ほ
うだったかを話し合っ

いました。

また月に1回、全校で
共通のテーマについて作
文を書き、学級で発表し
廊下に展示してしまし
た。展示すること（見せ
ること）により、字の書
き方、文の作り方に気を
つけるようになり、きれ
いな字で書かれていてと
ても感心しました。また
教室の入口には本が並ん
でおり、村立図書館の司
書が常に入れ替えを行っ
ていて、手に取りやす
く、良く読書しているよ
うに感じました。

また、村では中学生を
対象に学習塾をやってい
て、講師選定、時間割の
設定などは教育委員会が

行い、自己負担はテキス
ト代1300円のみとの
ことでした。

東成瀬村教育長からは
「学力向上に決め手はな
く、あたり前のことがあ
たり前にできる子を育て
れば、おのずと学力があ
いてくると信じてたい。教
職員が一生懸命で、保護
者の理解があり、地域住
民や行政も支援するとい
う最低条件は必要ではな
いか。」というアドバイ
スがありました。

今後、当町においても
教育委員会委員と意見交
換し、議会は議会の立場
で様々な面で学力向上に
向けた支援をする必要が
あると痛感しました。



各教室入口にある本は、村の司書
が定期的に入れ替えをします

町の災害対策を調査

産業建設常任委員会所管事務調査

10月17日、産業建設常任委員会の所管事務調査として「災害対策について」のヒアリングを行いました。

今回の所管事務調査には全議員が参加し、8月に広島県で発生した大規模土石流災害など、近年多発している想定を超え

るような大規模災害への対応について、一戸町での課題を把握することを目的として実施したものです。

ヒアリングでは、総務課、地域整備課、産業課から災害対策本部などの設置基準や体制、町内の土砂災害警戒区域、農林

業被害の確認・報告の流れなどについてそれぞれ説明を受けたあと、意見交換を行いました。

意見交換では、消防団や自主防災組織との情報共有の重要性、避難所の充実の必要性などのほか、災害時には気象情報などをもとに住民一人ひとりの判断や行動が求められることもあることから、日頃から各家庭で災害時の行動を確認することを呼び掛けていかなければならないことなどの意見が交わされました。



災害対策について意見交換をしました

議会と行政の連携を紹介

議会が教育を変える

～日本教育新聞～

12月1日発行の日本教育新聞のコラムで、流通経済大学法学部准教授の坂野喜隆氏が、11月18日に総務教育民生常任委員会と教育委員会が合同で秋田県東成瀬村で実施した視察研修を題材に、議会と行政の連携について紹介しました。

記事では、「議会と行政の連携が叫ばれて久しいが、『言うは易し、行うは難し』で議会にとっても重要な課題である。」

「一戸町議会は教育をはじめとしたまちづくりの問題意識を視察によって行政と共感する。議会と行政の連携が難しいといわれる中、共に行動することを心掛ける町議会は、行政の信頼を勝ち得ているようである。その結果、一戸町では議会と行政が連携し行政課題に取り組んでいる。」と記載されました。

記事の写しは、議会事務局にあります。



秋田県東成瀬村視察の様子

国体運営と人口減少対策の取り組み

うれしの
長崎県松浦市・佐賀県嬉野市

10月18日から20日の日程で、長崎がんばらば国体のなぎなた競技会場である長崎県松浦市と佐賀県嬉野市を視察研修しました。

報告 田中辰也 議員



写真上：なぎなた競技会場内の様子

写真下：広いスペースに出店テントが並んでいます

競技運営のみならず

歓迎行事も市民一体で

長崎県松浦市

なぎなた競技は、松浦市文化会館を会場に開催されました。競技会場となるふれあいホールのほかに同一施設の中に、

複数のホールがあるために、選手役員控室などは十分に用意されています。また他の場所にも練習会場を設置していまし

たが、同一施設内にも練習会場があり、選手がウォーミングアップをしていました。駐車場は会館駐車場で約400台、臨海部にあるため、隣接地にも十分な駐車スペースを設けていました。競技会場への観客の入口は外部から直接、土足のまま2階観客席に入る

写真右：
応援のぼりは市内の小学生の手作りです

写真下：
運営には中高生も参加



ようにしており、入退場の混乱なくスムーズな運営がなされていました。運営にあたっては、多くの中高生も参加していました。会場入口には、各県の応援のぼりを市内の小中学生が作成して盛り上げていました。さらに会場周辺では、中央部に大きなテントを配置し、その中で会場での競技の様子が大きなモニターに中継されていました。その周囲に出店のテントが設置されていました。また、郷土芸能などの発表が繰り広げられ、市民一丸となって、盛り上げている

様子が見て取れました。当町では、練習会場については武道場の落成と各会場をシャトルバスで結ぶことで問題ないと思えますが、歓迎スペースを確保すると会場周辺の駐車スペースが狭すぎるのではないかと思われました。また、控室についても十分ではないと感じました。歓迎体制については、町民一丸となった取り組みが必要で、多くの来場者に一戸町をPRするよい機会とし、また来てみたいと思わせるような歓迎の取り組みが重要だと思われました。

奨励金や結婚支援事業で

人口増へ

佐賀県嬉野市

嬉野市では、人口減少に歯止めをかけるために、平成20年から転入者が住宅取得に際し、住宅一戸あたり50万円の奨励金を出しています。平成21年からは市内居住者の住宅購入に対しても同額

を支給しています。

また、市内業者の施行で100万円を追加支給してまいりました。平成26年度からは、一戸あたり30万円、市内業者施行で70万円加算に減額支給しています。

出逢いのイベント
～恋人の聖地DE愛をつかめ！
婚活バスツアー～

“恋人の聖地”として選ばれしロマンティック・スポット
 きっとあなたに素敵な出逢いが待っています♡

▼日時 平成27年3月9日(日)
 9時00分から18時30まで

▼行先 九州北部の“恋人の聖地”2か所

▼参加条件 結婚を希望する20歳以上の未婚男性も独身女性

▼定員 男性・女性 各10名(申込み多数の場合は抽選とさせていただきます)

▼参加費 無料(軽食代のみ自己負担です。2,180円)

▼申込方法 嬉野市役所 市民協働推進課へ
 “電話”、“ファックス”、または“メール”で申し込みください。

▼締め切り 平成27年2月20日(金)

※イベント内容の詳細については、参加者の方のみお知らせします。

特別企画
 今回のイベントで
 カップルとなった方には、
 “豪華プレゼント”があります!

“恋人の聖地”とは…
 全国の観光地帯の中からプロポーズにふさわしい場所として選定されたスポットです。

お申し込み先 嬉野市役所 堀田庁舎 電話:0954-66-9115 ファックス:0954-66-3119
 お問い合わせ 市民協働推進課 メール:kyoudou@city.ureshino.lg.jp
 このイベントは、「平成26年度女性活躍しおむせフォロー協議事業」の補助金で実施するものです。

結婚支援事業のひとつ 婚活バスツアー (嬉野市)

さらに、転入者に対しては家族構成に応じて加算制度があり、転入を誘引するには十分な奨励金と思われる。

しかし、財源的な問題があり、運営はかなり苦勞しているようでした。

また、未婚率を減少させるために、平成23年度より結婚支援グループを設置し、結婚支援事業を実施しています。現在の登録者数は男59人、女23人の合計82人です。これまで5組10人が結ばれました。

事業内容としては、結婚相談のほか、出会いイベントとしてバスツアーの開催や、独身男性に対するコミュニケーション能力アップ講座などの研修会をしています。さらに近隣市町村との交流も積極的に実施しています。

当町でも何らかの取り組みを考える時期ではないかと実感しました。

子育て・介護環境を合同研修

カシオペア連邦議会議員協議会

11月17日に二戸広域4市町村で構成するカシオペア連邦議会議員協議会の研修会があり、総務教育民生常任委員を中心に8名の議員が参加しました。

子ども・子育て支援法により改正される、幼稚園と保育所を一元化した「認定子ども園」である二戸市福岡の「まつのみ

るこども園」で施設見学と説明を受けました。

午後からは、介護保険制度改正の影響などについて、当町小鳥谷の「こずやサンプルク」にて、研修を行いました。

近隣三町の交流を深める

三町議会議員協議会

11月26日に岩手町において、隣接する岩手・葛巻両町議会とで構成する議員協議会が開催されました。

講演会では、岩手町の歴史研究者である高橋昭治氏が「考古学から見たふるさとの歴史」と題し講演しました。続いて会場を体育館に移し、ニュースポーツ体験を行い交流を深めました。

最後に各町長とともに情報交換会を開催しました。情報交換会では、この三町は、基幹となる産

業や自然環境が近似しており、今後とも協力していくことが確認されました。



まつのみこども園 (左: 保育園、右: 幼稚園) の園児の様子



ニュースポーツで交流を深めました

し どう かん 一戸町武道場（士道館）について



一戸町教育委員会生涯学習課 西村 美香



12月26日に完成した一戸町武道場（士道館）

12月26日に一戸町武道場（士道館）が完成しました。

武道場は、木造建築で、床面積約960㎡、柔剣道・なぎなたのコートが2面とれます。床には選手の手への衝撃をおさえるためのスプリング、床暖房が完備されており、多くの方々に心身鍛錬の場として活用されることを期待されています。

武道には「礼には始まり礼に終わる」という共通の言葉があります。これはただ挨拶をすることではなく、稽古をさせていただいた会場指導者、共に学びあった仲間へ感謝、尊敬の念を込めて礼を行います。気持ちのこもっていない礼は礼ではありません。このように、礼一つとっても武道の世界は奥が深い

士道館に込めた思い

質素で忍耐強く、正直で名誉心に富み、弱者をいたわり、公の心を持った日本人の生き方（武士道）を、この武道場で武道を学ぶことを通して、子どもたちに伝え学ぶ場にしたいという思いを込めて名付けられました。

のです。武道場は、礼儀作法を身につけ、技を磨き、心身を鍛える修行の場です。日常生活から離れ、精神統一しながら自己鍛錬する場が、道場の役割だと考えます。単に技術の修練や、勝敗の結果のみにこだわった稽古をするのではなく、武道を正しく理解し、この日本の伝統文化を維持・発展させるよう努力する場であればなりません。



町内産木材をふんだんに使用した武道場内部

武道を通し、強靱な心身を身に付け、勇気と思いやりと正義感を持った一戸を担う人材の育成の場であってほしいと思います。しかも一戸町は各武道において、指導者も充実しています。これから一人でも多くの町民の方々に、武道を愛好していただき、心身の鍛錬、人格形成の場として、多くの方に武道場を活用していただきたいと思います。

あとがき

▼新年おめでとうございます。新しい編集委員会になって早一年です。今年もよろしくお願いいたします。

▼「アベノミクス」の是非が問われた選挙も終わってみれば与党の圧勝でした。▼こは結果におごることなく、民意による政策で震災からの一日も早い復興を願わずにはいられません。

▼町政では、久々の企業立地、武道場の建設などもありました。厳しい時代に変わりありませんが、気持ちだけでも「心豊かに」いきたいと思えます。

議会広報編集委員会
委員 熊谷 一男